

お米作りを終えて ～令和元年度・小学校田んぼを担当された先生方のお言葉～

令和最初の小学校田んぼの作業を終えて、担当された先生方からお言葉を頂きました。小学校田んぼ意義や、係った全ての方々へのお気持ちのこもったメッセージです。(赤シャツ親父)

【大椎小学校の先生方から】**☆ 教頭 田島明美**

YPP、学年を超えた保護者ボランティア、小山町の皆様のご支援とご指導のおかげで、充実した田んぼ活動ができました。本当にありがとうございます。

気持ちのよい初夏、5年生の子どもたちは冷たい泥に足を入れて若草色の苗を植えました。秋には、実った金色の稲を刈り取り、学校まで大事に持ち帰って干しました。田んぼ活動では、季節の変化を全身で感じられる貴重な体験ができました。このような体験は、子どもたちにとって、豊かな感性が養われ、食物に対する理解が深まるだけでなく、大人になっても忘れられない思い出になると思います。素手で泥に触ったり、素足で泥を踏んだりする経験は貴重です。この活動がなければ、田んぼの土や水の感触も、苗をつかんだ感じも、水の中のカエルやアメンボなどの姿もわからないままだったかもしれません。草取りや稲刈りをしなければ、植物の根がどんなにしぶとく土に伸びているか、稲の茎の数が田植えの時からどれほど増え大きくなっているか、実感することはなかったかもしれません。あらためて五感を通して学ぶことの大切さを感じます。ボランティアの皆様の陰で支えて下さった優しさや温かい心遣いに支えられた一年間でした。自然と人から多くのことを学ぶことができました。

☆「実感」に感謝 五年一組担任 村山 俊造

今回の「大椎っ子田んぼ」の活動を通して、とても印象に残った感想がありました。九月の稲刈り体験をした後に、一人の児童が書いた感想です。それは「一粒も残さないと言われるのがこういうことかとわかりました。」というものです。

「一粒も残さずに・・・」という言葉は、一般的によく耳にする言葉です。私も、子どものころは、食事のたびに両親から何度も聞かされてきました。教職についてからは、給食の時間によく使います。今回、この児童の感想を読んだことで、「一粒も残さずに・・・」の言葉の意味を改めて振り返ることができました。そして、この言葉の持つ深い意味を初めて感じ取ることができた気がします。

日頃より何かを学ぶ、習得するときは「実感」することが大切だと考えています。人の優しさ、命の尊さ、自然の素晴らしさ、災害の怖さなど、人として学ぶべきことがたくさんあります。いろいろな情報を得やすくなった今の時代では、それらを「知る」「理解する」ことはたやすくなっていますが、なかなか「実感」することはできません。この児童は、実際に稲刈りの体験をしたことで、「一粒も残さずに・・・」という言葉で「実感」できたのだと思います。

「大椎っ子田んぼ」の活動では、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、自分で作った米の試食などなかなか味わえない体験ができました。その中で田んぼに素足で入った泥の感触、田植え作業の大変さ、稲刈りの難しさ、米の美味しさなどが五感を通して感じ取れたと思います。多くの「実感」を与えて下さった関係者の皆様に、心から感謝いたします。

☆田んぼ活動を終えて 五年二組担任 大貫 健嗣

稲の栽培に携わらせていただいたこの一年、子ども達、そして私にとってかけがえのない貴重な体験となりました。大椎小学校に勤務してから二回目の田んぼ活動となりますが、稲の成長過程や出来栄、収穫量ともに前年度との違いが見られ、新たな学びの機会となったと感じています。

児童においては、田植え、草刈り、稲刈り、脱穀は初めての経験であり、驚きの連続であったと思います。慣れない田植え作業、泥だらけになりながらも大粒の汗を流し、作業に取り組む子ども達の姿に「美味しいお米を作りたい」という強い思いを感じました。

感謝の会では、自分たちの手で育てたお米を、お世話になった方々に食べていただきたいという思いで、一生懸命おにぎりを握っていました。お世話になった方々から「とても美味しいです。」「良いお米ができましたね。」という言葉を受けると目を輝かせて喜んでいました。この経験は子供たちにとって大きな自信になったと思います。また感想文では、「こんなに美味しいおにぎり初めて食べた。」や「頑張って育てたからとても美味しい」等の嬉しい感想が多く見られました。

実際に自ら稲を育て、食べる経験は、お米の本当の価値を理解するうえで貴重な機会になったと感じています。

現在、子ども達の多くは、稲の栽培に携わることなく、お米の大切さに気付かないまま大人になっていきます。実際に活動を通して多くの努力や苦労の先に美味しいお米が出来上がることを理解できたのは、子ども達の将来において重要な学びであったと感じています。これもYPPの皆様の支えと、保護者の方々のご協力があったからだだと心より感謝しております。



7月・草ふみ・先生も、泥に足をとられ。。

【あすみ小学校の先生方から】

☆ 五年一組担任 石井 昌也

今年度、あすみ田んぼの学習に関わり、子供たちと同様に、初めて米作りを体験する大変貴重な時間を過ごすことができました。この貴重な時間を充実したものにするために、事前に計画・準備をしてくださったYPPの方々ボランティアの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

台風の際には、田んぼを心配して、いち早く様子を見に行っていたいただき、すぐに倒れかけていた稲に支えを作るなどの対応をしていただきました。実際に子供たちと一緒に田んぼに行ったのは3回でしたが、それ以外にどれだけ多くの時間をあすみ田んぼの学習のために費やしてくださったのか、本当に多くの方々に支えられたこの学習は、あすみが丘小学校が誇れる特色ある教育活動の一つです。

あすみが丘小学校の5年生だけが体験できるこの学習を通して、米作りの苦労とやりがい、そして谷津田の自然のすばらしさを実感するとともに、地域の方々の協力に対する感謝の気持ちをもつことで、教室だけでは学べない多くのことを学び、子供たちは大きく成長することができました。

今後とも、あすみが丘小学校の5年生のために、ご指導・ご支援をいただけますと幸いです。1年間、本当にありがとうございました。

☆ 五年二組担任 多田 有輝

今年度、初めて五年生の担任となり、「総合的な学習の時間」にて、あすみ田んぼの学習に関わらせていただきました。

五年生の社会科では、米作りについて学習します。授業では、米作りの一年ということで、どんな流れで、どんな機械を使って、どんな思いでお米を作っているかということ学びます。それと同時に、今回のように米作りを実際に体験できるということはとても良い機会だったと感じています。

自分自身が小学生だった時にも、米作りの体験学習は行われていました。しかし、それは今回あすみ小の子どもたちが体験したような田んぼを使った学習ではなく、一人一つのバケツの中で稲を育てるという学習でした。今でも、同じようにバケツで米作りの学習を行っている学校はあるそうです。そのような中で、実際に田んぼで米作りを学ぶことができるあすみ小の子どもたちは、改めて恵まれた環境であると感じました。

実際に田んぼに行ったからこそ分かる、土の感触や稲の成長、その季節でしか見れない生き物、初めて使う道具など、ここでしか体験できないことがたくさんあったのではないかと思います。

このような貴重な体験は、YPPの方々やボランティアの方々など、多くの方にご協力いただき、行うことができました。子どもたちは安全に楽しく活動できたと思います。計画から準備、そして当日と、大変お世話になりました。

一年間、ありがとうございました。

☆ 五年三組担任 渡辺 真紀

1年間を通して行う「あすみ田んぼ」の学習を、子どもたちはとても楽しみにしていました。また、それは担任の私も同じ気持ちでした。初めて田んぼの中に足を入れたときの子どもたちの反応は様々で、不安そうに友達の手を借りている子や、嬉しそうに笑顔を輝かせながらどんどん進む子・・・どの児童も、終盤の稲刈りの時期には、慣れた様子で田んぼの中で作業する姿が見られました。社会科の学習で、五年生は米作りについて学習します。教科書では、農家の方々が一年を通して米作りを行う様子などが紹介されています。教科書で習う内容を、実際に体験することのできるあすみが丘小の五年生はとても恵まれており、このあすみ田んぼで学習したことを忘れないでほしいなと感じます。また、毎回書いていた振り返りシートには、「ボランティアの方が優しく教えてくれたからできるようになった」「ありがとうの気持ちを伝えたい」という思いを書いた児童がたくさんいます。周りで支えてくれている人に気づき、感謝するということも、「あすみ田んぼ」の学習を通して児童が身に着けたことの一つだと思っています。児童の安全を考え、様々な活動を支えて下さりありがとうございました。

☆ 五年四組担任 横田 宜郁

あすみが丘小学校に赴任して、初めての5年生の担任となりました。本格的な田植えや稲刈りが体験できるあすみ田んぼでの活動は、子どもにとっても私にとっても新しい発見の連続だったと思います。

また、小さい頃は家の田んぼで田植えや稲刈りを手伝ったりするのが日常であった私にとっては、このあすみ田んぼでの活動は懐かしくもありました。

近年、人口の集中や都市化が進む中で、蛙や昆虫に嫌悪感を覚える子どもが多くなっていると感じられることや、食事の西洋化に伴って、長く日本人の主食として食べられてきた米の大切さに気付くことができている子どもが増えていると感じられる中で、あすみが丘小学校の5年生は、地域の方々の協力のもと、実際に米作りの体験ができることは大変有意義なことだと感じます。

5年生の子どもたちは、社会科の学習で米作りについて学びます。しかし、米作りをする農家が高齢化によって減ってきていることや、米作りの大変さをいくら教室で説いたところで、自分事としてとらえさせるのはとても難しいことです。そのような中で、百聞は一見に如かずと言いますが、実際の体験に勝る学びはないということを、今回のあすみ田んぼの活動を通じて痛感しました。

たくさんの方々への支えや、大変な準備のもとに成り立っている活動ではありませんが、その分、子どもたちの心に残る部分も多いのではないかと思います。この活動を通して学んだことを忘れず、これからの生活に生かしていけるように学校でも指導していきたいと思っておりますので、YPPの方々やボランティアの方々におかれましては、ご支援を続けていただけましたら幸いです。1年間ありがとうございました。PP、学年を超えた保護者ボランティア、小山町の皆様のご支援とご指導のおかげで、充実した田んぼ活動ができました。本当にありがとうございました。



9月・稲刈り・先生も協力して奮闘！



里山たんけんレポート

第240回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2019年1月5日(日) 晴

今日は第240回目の観察会です。20年の記念の会です。祝うかのように快晴になりました。たくさんの参加して下さった方々に支えられてのことで有り難くお礼申し上げます。

例年1月は鹿島川合流部まで谷津の現状確認を兼ねて鳥を見ながら巡っています。今年は台風と大雨で谷津内の水位が高いままでぬかるみが多く歩くのが大変でしたが下流部はイノシシ対策で草や笹が刈られていてなんとが合流部へ行くことが出来ました。こども達も頑張って歩いてくれました。至る所イノシシの痕跡があり下流の田んぼの畔も荒らされていて、箱なも仕掛けられていました。田んぼは薄氷が張っていて、子どもたちは手にとって遊んでいました。途中で240回記念写真をパチリ。肝心の鳥はさっぱり現れてくれません。スコップを2台持って行ったのですが姿を捕らえて見て貰うチャンスは殆どありませんでした。アオジやカシラダカはいるのですが、双眼鏡でちらっと見えるだけで双眼鏡を使い慣れていない方が多かったのでお気の毒でした。結局鳥は14種出現というさみしい結果でした。



参加20名(大人13名、中学生1名、小学生4名、幼2名) 報告 網代春男・写真 田中正彦

第245回 下大和田 YPP「どんど焼きと昔遊び」

2020年1月11日(土) 曇・晴

先ずは火を起しです。6組のチームになって6台の火起こし器をかこんで火起こしに掛かりました。開始時は曇天で地面は湿っている状態で火種までは出来るのですが、なかなか炎が出てくれませんでした。やがてひと組から歓声が上がって点火に成功しました。かかしや持ち寄ったお正月飾り、しめ縄、書き初などを、無病息災、五穀豊穡、諸々の願いを込めておたき上げしました。暖かい汁物、お汁粉などが振舞われました。



子どもたちは弓矢的的当て、かるた、ベーゴマ・こま、けん玉、ポートレース、谷津探検などたくさんのお楽しみを満喫しました。

参加51名(大人28名、小学生13名、幼児10名)

報告 網代春男・写真 田中正彦

里山クラブ 森と水辺の手入れ

2020年1月19日(日) 晴

畔の補修とイノシシ対策でYPP 田とマイ田んぼの間のアシ原の草刈り、道路際の山側から流れ落ちた土の整理などを分担して作業しました。

暖冬で早く目覚めたのかニホンアカガエルの卵塊が1つありました。お腹の大きいカエルも出てきました。観察を始めてから最も早い産卵でした。今年は産卵が早まるかも知れません。

メダカも田んぼで群れていました。

参加11名(大人6名、小学生1名、幼児4名、) 報告・写真 網代春男



第185回 小山町 YPP「あぜの手入れ」

2020年1月19日(日) 晴

当初の作業日は18日を予定していましたが、冷たい雨が一日降り続き、翌日の活動としました。前日とは打って変わって、春を思わせる暖かな良いお天気でした。モグラが畦の中を活発に穴を開けて、水がかなり抜けてしまっている田んぼの畦の手入れをしました。柔らかくて暖かい日差しの下、やや汗ばむ程で、動き易かったのもあり、作業は進み、水が殆どなかった田んぼがみるみるうちに見違えるよう水を湛えました。

参加 大人4名 報告 たんぽぽ

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 1月19日 シジュウカラ、囀りの様な声。春めいた陽気にフライングか？(赤シャツおやじ)
1月21日 カケスとウグイス、地鳴き合戦？或いはカケスの自作自演？(赤シャツおやじ)
1月24日 ニホンアカガエル卵塊。セグロセキレイ、薄氷の上を散歩。(赤シャツおやじ)

下大和田

- 1月19日 ニホンアカガエル卵塊あり、過去最も早い産卵。(網代)
1月28日 暖冬で産卵が早まり、多数の卵塊が見られた。(網代)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも)：ちば環境情報センター(E-mail:hello@ceic.info/)

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。



(シジュウカラ 撮影・赤シャツ親父)

▼里山くらぶ 森と水辺の手入れ

シイタケ、ナメコ、ヒラタケ、エノキタケなどの種駒を植えます。

日時：2020年2月16日(日)9時45分~12時 雨天延期

場所：千葉市緑区下大和田谷津

集合：現地。初めて参加する方は駐車場や会場をご案内しますので事前に網代(あじろ)090-2301-0413までご連絡ください。

交通：JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで中野操車場バス停下車。徒歩5分で現地。<千葉駅発8:25、8:40など、所要時間45分>料金は550円。

持ち物：弁当、飲み物、長袖・長ズボンの服装、帽子、敷物など。

参加費：無料

主催：ちば環境情報センター 共催 ちば・谷津田フォーラム

▼第242回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

千葉市科学館と共催の観察会で早春のいきものとふれあいます。

日時：2020年3月1日(日)9時45分~14時 雨天決行。

場所：集合：交通：同上

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、弁当、敷物。

参加費：100円(小学生以上、資料代など)

主催：ちば環境情報センター、ちば・谷津田フォーラム

▼第186回 小山町YPP「あぜの整備」

来年度の米づくりに備えて、田んぼのあぜの整備をします。

日時：2020年2月16日(日)10時~12時 ☆小雨決行

場所：千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物：飲み物、長靴(長めのもの)、帽子、軍手、敷物。

参加費：100円(小学生以上、資料代など)

主催：ちば環境情報センター

■編集後記 2020年1月17日に地質時代「チバニアン」が国際地質科学連合(IUGS)に認定されたとの事。全国区のメディアでも大きなニュースとして報じられ、千葉駅では千葉日報の号外が出ましたね。何十万年との年代を決定付ける国際的に認められた地層が千葉県内に存在することは喜びとともに驚くばかりであります。一方で、人生100年は瞬時の如く、まして田んぼは1年に1回しか出来ません。しかし、その1回に喜び有り、涙あり、のドラマがつまっているんですね！
(赤シャツおやじ)